

世界遺産への道 5 2 《海外専門家から高い評価》

2013年04月15日

海外専門家から高い評価

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議では、国際専門家会議を2月1日から同4日まで開催。アジア圏内の研究者、国際的文化財修復管理の研究者、イギリス遺産の国際的な研究者、世界遺産登録時に現地調査するイコモス考古学遺産管理委員ら海外専門家が出席しました。

初日は、海の道むなかた館の3Dシアターなどを使って、本遺産の概要を説明した後、雨が降る中、構成資産候補の福津市新原・奴山古墳群や大島御嶽山遺跡、中津宮、沖津宮遙拝所、辺津宮の高宮祭場周辺などを視察しました。

現地では、古代の遺跡としての価値だけでなく、信仰が続いていることと、その雰囲気は今も感じ取れたということが話題となりました。

2日目からは、この視察を踏まえて、平成26年度提出予定の、世界遺産登録のための推薦書原案について議論をしました。

専門家からは、「祭祀（さいし）遺跡としての保存状態は素晴らしい」「東アジア世界との交流の中で、地方の勢力と中央政権が結びついて生まれた遺産として興味深い」「古代、大陸からのアイデアや技術の交流があり、歴史的な重要性のある資産として素晴らしい」などの評価を得ました。このことは、世界遺産としての価値を説明する上でも重要なキーワードになりそうです。

資産とその周辺環境の保存管理では、地元のコミュニティによって貴重な資産や資産周辺の環境を守っていかうという意識を高めることが重要です。観光に対する具体的な管理や誘導をしっかりと計画すること、ガイド施設の充実を図ることなど、活発な議論が交わされました。

現在市では、「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」や各地区コミュニティで保存管理や啓発について説明し、議論しています。

世界遺産登録活動は、資産そのものの価値を未来永劫（えいごう）伝えていくことはもちろん、みなさんが住んでいるまちそのものが、資産を支える重要な要素となります。



活発な議論を交わす国内外の専門家

7月1日（月）から世界遺産登録活動PR原付ナンバープレート交付開始

2013年05月01日

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産登録活動のPRと、新市制10周年記念事業の一環として、オリジナルナンバープレートを7月1日（月）から交付します。新プレートのデザインは昨年、一般公募したデザインの中から市民投票の結果、選ばれたものです。7月1日（月）から新規で交付する原動機付自転車のナンバープレートは新しいデザインのプレートです。

無料新プレートに交換できます

現行の市ナンバープレートを新しいナンバープレートに無料で交換することができます。交換は7月1日（月）からです。税務課固定資産税係、または大島行政センターにお越しください。

●持参品

旧プレート、標識交付証明書（登録時にプレートと一緒に配布済み。なくした場合は、所有者住所、氏名、車台番号、排気量、車名が必要）、届出者の印鑑（代理人での手続きも可）

●注意事項

▽プレートを交換するとナンバーが変わります

▽自賠責保険の変更手続き（標識番号の変更やシールの貼り替えなどが必要になる場合がありますので、加入している保険会社などへ問い合わせを）

▽希望番号申込期間終了後は、番号の指定はできません

▽交換は1台につき1回まで（数に限りがあります）

●交付場所

税務課（市役所本館1階）、大島行政センター

今回限り 希望ナンバーも選べます

※受付は終了しました。たくさんの申し込みありがとうございました。

オリジナルナンバープレートの導入を記念して、希望番号（ナンバーリクエスト）を受け付けます。申し込みは無料。※新しいナンバーの交付は7月1日（月）からです。

●オリジナルナンバープレートの対象車種と希望番号の範囲

種類	デザイン	ナンバー
～50cc （白色）		む 1～5000
51～90cc （黄色）		き 1～400

91～125cc (桃色)		ひ 1～500
ミニカー (水色)		て 1～100

●対象

1=交換を希望する人

2=申込時点で市に在住している人で、7月31日(水)までに原動機付自転車などを購入か譲り受ける予定の人

3=1,2共に、7月1日(月)から同31日(水)までにナンバーの受け取りが可能な人

●申込期間 5月1日(水)～同31日(金)

*5月31日(金)必着

●申込先 世界遺産登録推進室(海の道むなかた館)

※受付は終了しました。たくさんの申し込みありがとうございました。

(1)郵便番号(2)住所(3)氏名(4)電話番号(5)生年月日(6)排気量(7)希望番号(第2希望まで可)(8)新規・交換の別(交換の場合は現在使用中の番号を記載)(9)7月1日(月)の交付式への参加・不参加を明記して

▽市ホームページ

▽ハガキ=〒811-3504/深田588番地

▽FAX(62)2601

▽窓口

*税務課、大島行政センター窓口で申込も可

●当選結果 希望番号が重複したときは抽選。決定した番号は6月中旬にハガキでお知らせします

●注意事項

▽希望番号の権利を他の人に譲渡することはできません

▽当選者以外の名義での登録・交換はできません

▽希望した番号の受け取りは7月31日(水)までです(代理人での受け取りも可)。それ以降は希望番号の権利を失います

▽新しいナンバーの交付は7月1日(月)からです

事業者の人も希望番号を交付します

法人名義の原動機付自転車やミニカーも希望番号を受け付けます(個人が希望した番号以外の番号の中から先着)。

●受付日時 6月11日(火)9:00～17:00

●受付場所 市役所本館2階・201会議室

キラリ姫も参加！交付式を開きます



交付開始日の7月1日（月）14:00から、市役所1階ロビーでオリジナルナンバープレートの交付式を開きます。交付式には、市商工会のキャラクター「キラリ姫」と、今回採用されたプレートをデザインした北野宏一（こういち）さん（和歌山県田辺市）も参加します。ナンバーリクエストし、交付式に参加した人の中から抽選で5人にオリジナルナンバープレート交付記念のクオカード（500円分）をプレゼントします。みなさんの参加を待っています。

■問い合わせ先

世界遺産登録推進室（海の道むなかた館） ☎（62）2617

【ナンバープレートの交換や発行】

▽税務課固定資産税係 ☎（36）7351

▽大島行政センター ☎（72）2211

2013年06月15日

富士山に続け

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が平成21年1月、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載されました。

それから4年、推薦書提出に必要な資産価値の調査や証明、資産や周辺環境の保全対策の検討などを実施。現在、ユネスコ世界遺産センターへ推薦書を同27年2月に提出することを目標に、県や福津市とともに準備を進めています。

昨年の2月に推薦書が提出された2件の申請は、イコモス（国際記念物遺跡会議）の視察の結果、「富士山」は登録、「武家の古都鎌倉」は不登録と勧告されました。富士山は、今月開かれる世界遺産委員会で登録が決まる予定です。

また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、今年の2月に推薦書が提出されました。これらの3件を除いた同リスト記載の資産は10件で、その中から、準備が整ったものから推薦書が提出されます。

今年から、推薦書の提出は1カ国につき年1件となりました。

平成26年2月には、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」のいずれかが、推薦書提出の可能性が高く、同27年2月の本遺産群の推薦書提出は、とても高い目標です。

市では、他の資産よりも早く選ばれるように、資産の保存管理、保護する緩衝地帯の設定など、さまざまな準備を全力で進めています。最短の計画では、平成27年2月に推薦書提出、同27年夏にイコモス調査、同28年夏に世界遺産登録の可否が決定する予定です。



今月、世界遺産登録予定の「富士山」

辺津宮歴史ガイドで世界遺産登録を身近に

2013年07月01日

世界遺産登録についてのルックルック講座が無料で受けられます

市では、世界遺産登録を目指している「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を知ってもらおうと、ルックルック講座を実施しています。同遺産群をより身近に感じてもらうため、歴史ガイドで好評を得ている宗像歴史観光ボランティアの会との共同講座を始めました。

●時間 午前9時～午後5時の間の2時間程度

*原則、12月26日～翌年1月6日を除く

●集合場所 海の道むなかた館（深田）

*無料バスでの送迎可（定員22人）

●講座名 「宗像・沖ノ島と関連遺産群を体験しよう！」（講座番号=99-2）

●内容 1. 世界遺産登録を分かりやすく解説

2. 3D映像で沖ノ島を体験

3. 世界遺産構成資産候補宗像大社の辺津宮（田島）境内のガイドツアー

*見学地は、宗像大社・神宝館（入館料は自己負担）や新原・奴山古墳群に変更も可

●対象 市に在住、通勤、通学していて、10～30人程度のグループ

●受講料 無料

●申込締切日 実施希望日の1カ月前まで

●申込先 コミュニティ・協働推進課（メイトム宗像）

▽窓口 1住所 2氏名 3年齢 4電話番号 5講座名と講座番号を明記して

▽郵送=〒811・3437/久原180/市民活動係宛て

▽FAX (37) 4101

▽メール meitomu@city.munakata.fukuoka.jp

▽ホームページ <http://kouryuukan.com/course01.html>

●その他 講座終了後、「ルックルック講座報告書」の提出を

■問い合わせ先

▽申込方法について

コミュニティ・協働推進課市民活動係（メイトム宗像）☎（36）0311

▽講座内容について

世界遺産登録推進室（海の道むなかた館）☎（62）2617



ガイドの説明に興味津々の参加者（辺津宮）

2013 年 07 月 15 日

宗像大社辺津宮の境内（明治以降編）

古代・玄界灘を舞台に、日本と大陸の航海交流の要衝として信仰が生まれた宗像大社。その信仰は現在も続いています。

国指定史跡の「宗像神社境内（*1）」について、3回シリーズで紹介します。

（*1）現在、宗像大社と呼ばれていますが、指定名称は宗像神社境内です

昭和と平成の調査

●昭和 20～40 年代

戦前・戦後、疲弊（ひへい）していた宗像神社を建て直そうと、「宗像神社復興期盛会」を立ち上げ、神社の歴史を明らかにするため、神社史の編集や沖ノ島の調査に取り掛かりました。

調査を基に、心字池の改修や高宮祭場の整備など、昭和の造営が実施されました。この一大事業を成し遂げたのは、赤間出身の出光佐三さんでした。そして、昭和 46 年 4 月 22 日、「宗像神社境内」は国指定史跡となりました。

●平成 24 年以降

昭和の造営から 40 年以上が経過し、宗像神社境内の価値を損なうことなく保存していくため、文化財保護法に基づき、市が環境調査を実施しました。調査の中で明らかになった境内の記念碑などから、神社に対する人々の信仰を改めて感じることができます。

今に伝える記念碑

沖津宮、中津宮、辺津宮の総社であり、人々の参拝も多い宗像大社辺津宮には、いくつもの信仰の記念碑が残っています。

(1) 花崗岩製の石柱

手水舎（てみずしゃ）の手前にある花崗岩（かこうがん）製の石柱は、幟（のぼり）を立てるためのもので、昭和 13 年、門司鉄道局の文字が刻まれています。鉄道の安全を願って奉納されたものと思われます。

(2) 拝殿右側の石板

拝殿向かって右側にある石板は、明治 12 年に鶏卵卸問屋の関係者が集まって建てたもので、宗像地域は、当時養鶏が盛んであったことが分かります。



鶏卵卸問屋の関係者が建てた石板

(3)まよい子たづね石（たづね石）

今は、授与所の裏にあり、直接目にはできませんが、明治37年に建てられた「まよい子たづね石」と書かれた石柱があります。子どもでも読めるひらがなで書かれたこの石柱からは、祭りなどで、多くの人々がにぎわう中、親とはぐれて泣いている子どもたちがここで親と出会い、ほっとする情景が目に浮かびます。



「まよい子たづね石」と書かれた石柱

写真家・藤原新也さんが沖ノ島への思いを書に

2013年07月15日

沖ノ島を題材に、写真家の藤原新也さん（北九州市出身）と直木賞作家の安部龍太郎さん（八女市出身）が、共著『神の島 沖ノ島』を出版しました。

同著には、沖ノ島への航海の様子、巨岩やうっそうと茂る緑など沖ノ島の力強い自然、沖津宮や古代の遺物、神宝館に展示されている国宝など、さまざまな写真が収められています。

書道家でもある藤原さんが6月9日、宗像大社を訪れ、出版を記念して宗像大社に書を奉納しました。奉納した書は「潮の道」「岩力」「残歌（ざんこう）」の3点です。

藤原さんは「『潮の道』は大陸への道である海北道中（かいほくどうちゅう）、『岩力』は沖ノ島が石英斑岩（せきえいはんがん）という岩によって成ることを示します」と説明しました。また、世界のいろいろな場所を旅した経験のある藤原さんにとって、島全体がご神体で入島が制限されている沖ノ島は、特別な場所と感じたようで、「残歌」については「沖ノ島で、今まで経験したことのない空気を感じ、古代の風景はこんなものかなと思いました。島に対する敬いの気持ちや、今ここに残っているものを守っていく姿勢が必要だと感じ、その思いを書にしました」と語りました。

市では、世界遺産への登録に向けて、資産の保存管理や保護する緩衝地帯の設定など、さまざまな準備を進めています。「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を守っていくためにも、世界遺産登録の早期実現を目指します。



藤原さん（右から3人目）から宗像大社に奉納された書「潮の道」

めざせ！世界遺産登録！オリジナルナンバープレート交付開始

2013年08月01日



「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動のPRと、新市制10周年記念事業のオリジナルナンバープレートの交付が始まりました。



オリジナルナンバープレートの完成を喜ぶ参加者と市長（右から6人目）

交付初日の7月1日、世界遺産登録活動に協力する宗像郵便局とJAむなかたが、自動二輪車（郵便局82台、JA49台）のナンバープレートをオリジナルナンバープレートに交換して、出発式を開催しました。

また、市役所1階のロビーでは、自分が希望する番号が当選した人のうち、18人がオリジナルナンバープレート交付式に参加。式には、プレートをデザインした北野公一さん（和歌山県田辺市）やキラリ姫も参加し、多くの人でオリジナルナンバープレートの交付を祝いました。北野さんは「素晴らしいナンバープレートが完成して感動しました。多くの人に、このプレートを気に入ってもらえて大変うれしいです。これからも世界遺産登録活動をさらに盛り上げて行ってほしいです」とエールを送りました。



市に力強くエールを送る北野さん

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界的価値を紹介

2013年08月01日

平成28年の世界遺産登録を目指して

■資産価値の概要

沖ノ島では、4世紀後半から9世紀末まで、ヤマト王権による国家的祭祀（さいし）が実施されていました。日本と朝鮮半島を結ぶ海の道「海北道中（かいほくどうちゅう）」は、中国大陸や朝鮮半島との交流で重要だったことから、海北道中を守る宗像三女神が生まれ、沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮からなる宗像大社が成立しました。沖ノ島祭祀はこの海域を支配していた宗像氏らが担い、海を望む台地に古墳を築きました。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」には、中国大陸・朝鮮半島とヤマト王権との交流の証拠となる古代の祭祀遺跡が今に残されています。また、この遺産は日本固有の信仰「神道（しんとう）」の変遷が確認できます。



■神にささげた宝物 ～国家的祭祀の証～

沖ノ島祭祀の学術調査は、1954年から1971年にかけて3度にわたり実施され、国家的祭祀が4種類の祭祀形態に変化しながら500年にもわたって実施されたことが分かりました。神にささげた宝物には、中国大陸や朝鮮半島、シルクロードを経て西アジア（イラン）から伝わった宝物もあります。

岩上祭祀（4世紀後半～5世紀）



巨大な岩の上での祭祀。大量の銅鏡や、剣、勾玉（まがたま）などが出土しています。

岩陰祭祀（5世紀後半～7世紀）



巨大な岩の陰での祭祀。朝鮮半島やイランから伝わったとされる宝物が出土しています。

半岩陰・半露天祭祀（7世紀後半～8世紀前半）



岩陰と露天の間で実施された祭祀。中国から伝わったとされる宝物が出土しています。

露天祭祀（8世紀～9世紀末）



最後の国家的祭祀の形態。畿内での祭祀の方法がここでも実施されています。



神勅が書かれた扁（へん）額（辺津宮本殿）

■宗像三女神が守る海北道中 ～「古事記」「日本書紀」に記される～

日本書紀（720年）には、天照大神が御子神の宗像三女神に「大陸への海路に降りて、歴代天皇を助け、天皇より祭りを受けられよ」との神勅（しんちよく）を下したと記されています。

長女神の田心姫神は沖津宮、次女神の湍津姫神は中津宮、三女神の市杵島姫神は辺津宮にそれぞれ祭られています。

「沖津宮」（沖ノ島）-田心姫神-



沖津宮

国家的祭祀を終えた後も、神の島として宗像氏らによる信仰が続きました。17世紀には社殿が建てられたとされています。



沖津宮遙拝所

通常、渡島できない沖ノ島を拝むため、大島北側の海岸に面した丘の上に建てられています。

「中津宮」（大島）-湍津姫神-



中津宮

17世紀には社殿が建てられたとされ、海を望む御嶽山山頂のふもとに建っています。



大島御嶽山遺跡

御嶽山では沖ノ島での露天祭祀と同様の宝物が出土しています。

「辺津宮」 (田島) -市杵島姫神-



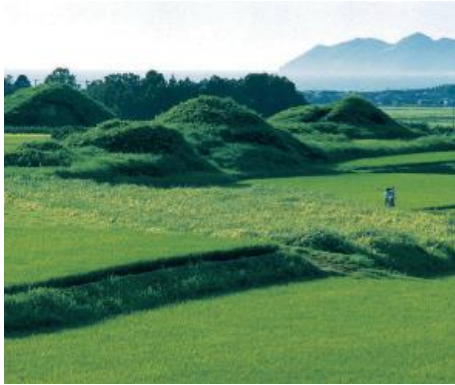
辺津宮



下高宮遺跡

三宮の総社。現在の本殿は大宮司宗像氏貞、拝殿は小早川隆景が16世紀後半に再建したもので、祭祀と同様の宝物が出土しています。

新原・奴山古墳群



新原・奴山古墳群

沖ノ島祭祀を実施した宗像氏らは、5世紀前半から6世紀後半にかけて、当時の入り海に面した「海北道中」を望む台地に前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の計41基の古墳を築きました。

神宝館では沖ノ島の宝物を見学できます



●休館日 なし

●入館料

▽大人=500円 ▽高校・大学生=300円

▽小・中学生=200円

●開館時間 9:00~16:30

■問い合わせ先 宗像大社 ☎ (62) 1311

海の道むなかた館では通常渡島できない沖ノ島を3D体感できます



●開館時間 9:00~18:00

●休館日 毎週月曜日

●入館料 無料

■問い合わせ先 海の道むなかた館 ☎ (62) 2600

オガチマンス ～9月イベント情報～

2013年08月01日

毎年10月1日～同3日、「みあれ祭」に始まる宗像大社秋季大祭が開催されます。秋季大祭前の9月をオガチマンス（世界遺産強調月間）とし、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」をPRするさまざまなイベントを実施します。「オガチ」は沖ノ島に生息する「オオミズナギドリ」の俗称です。



オオミズナギドリ通称「オガチ」

●8月31日（土）9月1日（日）●

大島で採れた海産物のお土産付【大島で3宮参りバスツアー】

中津宮がある大島では、沖津宮、辺津宮もお参りすることができます。地元ガイドとバスで島内を回り、大島沖で捕れた新鮮な魚がいっぱいのランチを食べます



(写真はイメージ)

●内容

▽午前コース

9:55＝大島フェリーターミナル集合／

10:00～11:30＝バスツアー／

11:45～12:35＝食事

▽午後コース

11:35＝大島フェリーターミナル集合／

11:40～12:30＝食事／

12:40～14:10＝バスツアー

●ツアーコース

中津宮→御嶽山展望台→沖津宮遙拝所→辺津宮遙拝所

* 荒天の場合は中止

●定員 各先着20人

●参加料

▽中学生以上＝2,000円▽小学生以下＝1,000円

* 昼食代、保険料含む。お土産は中学生以上のみ

* 別途、往復渡船代1,100円（子ども560円）必要

●申込期間 8月1日（木）～同19日（月）

■ 申込先 大島観光案内所 ☎（72）2226

9月7日（土）同8日（日）

●【「はるかな島のものがたり」おはなし会】



沖ノ島を題材にした絵本のおはなし会です。大スクリーンに絵本を映し出ししながら絵本を読みます。鑑賞無料。

●時間 いずれも13:30～13:50

* 事前申込不要

●会場 海の道むなかた館・3Dシアター

【宗像大社散策ツアー】

宗像歴史観光ボランティアのガイドで、宗像大社境内を散策し、リニューアルした神宝館で所蔵された国宝を見学します。



- 時間 いずれも 10:00～12:00
- 集合場所 海の道むなかた館
- 定員 各先着 30 人
- 参加料 無料
- *別途、神宝館入館料 400 円必要
- 申込期間 8月1日(木)～同31日(土)
- 申込・問い合わせ先 世界遺産登録推進室(海の道むなかた館)
- ☎ (62) 2 6 1 7

●9月14日(土)●

【市民参加型ミュージカルむなかた三女神記～野を駆ける夢の風～】

ミュージカルむなかた三女神記待望の第3章。地方を旅する一座の翔(かける)は古代宗像が舞台の本の世界に引き込まれてしまう。友情、愛、今も宗像の大地を駆け巡る風の中に先人たちの息づかいが聴こえる。



- 時間
- 【第1回】
- ▽開場=12:30 ▽開演=13:00
- 【第2回】
- ▽開場=16:30 ▽開演=17:00
- 場所 宗像ユリックス・イベントホール
- チケット
- ▽中学生以下=500円(当日600円)
- ▽高校生以上=1,000円(当日1,200円)
- *各コミセン、宗像ユリックスで販売
- 問い合わせ先 公益社団法人宗像青年会議所 ☎ (39) 7 1 6 6

●9月15日(日)●

【ミュージアムコンサート特別企画 野外劇「姫神の宝物」】

タイムスリップしたケンタが、古代の子どもたちと冒険の果てに手に入れた宝物とは?
本市初の本格的野外劇を楽しんでください。



- 時間 ▽開場=18:00 ▽開演=18:30
- 場所 海の道むなかた館・裏庭
- *雨天時は館内
- 鑑賞料 無料
- *事前申込不要
- 問い合わせ先
- 海の道むなかた館 ☎ (62) 2 6 0 0

●9月18日(水)～11月24日(日)●

【秋の特別展「シルクロード展」】



遠くシルクロードを渡ってきた、当時の貴重な宝を神にささげた沖ノ島祭祀。新市政 10 周年記念の特別展です。

■ 問い合わせ先 海の道むなかた館 ☎ (62) 2 6 0 0

● 9月21日(土) 同22日(日) ●

【宝探し in 宗像大社「海の道を守るもの～宗像三女神伝説～」】

地図を見ながら境内に隠された宝を探し、謎を解こう！



●対象 小学生以上

*小学4年生未満は保護者の同伴を

●定員 各回先着 50 組 (1 組 5 人まで)

●参加料 1 組 500 円

●日時

▽第1回＝9月21日(土) 9:00～10:00 受付

▽第2回＝同21日(土) 13:00～14:00 受付

▽第3回＝同22日(日) 9:00～10:00 受付

*いずれも約2時間、同様の内容

■申込先

世界遺産登録推進室(海の道むなかた館)

☎ (62) 2 6 1 7

*申込方法などの詳細は問い合わせを

● 9月29日(日)～10月3日(木) ●

【神迎え・灯籠の道】



(写真はイメージ)

神湊から宗像大社辺津宮へと続く神の道。旧玄海小学校から海の道むなかた館の間を手作りの灯籠(とうろう)で飾ります。

■ 問い合わせ先 世界遺産登録推進室(海の道むなかた館) ☎ (62) 2 6 1 7

● 9月30日（月） ●

【みあれ祭前夜祭花火大会】

オガチマンスもいよいよフィナーレ。翌日の神迎え神事を控え、秋の夜空を大輪の花火で飾ります。



●時間 20:00～20:30（予定）

●会場 北斗の水くみ公園（道の駅むなかた海側）

■問い合わせ先

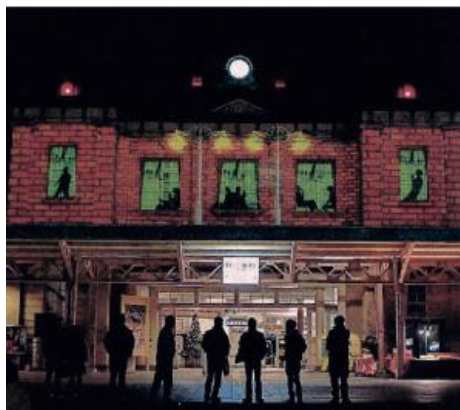
みあれ祭前夜祭実行委員会（海の道むなかた館内）

☎（62） 2 6 0 0

宗像大社から無料
シャトルバスあり

● 9月30日（月）～10月2日（水） ●

【海の道むなかた館・プロジェクションマッピング】



今、話題の映像技術で海の道むなかた館の建物をスクリーンに、沖ノ島をテーマにした映像を投影します。

●時間 19:30～21:00

■ 問い合わせ先

世界遺産登録推進室（海の道むなかた館）

☎（62） 2 6 1 7

（写真はイメージ）

宗像大社秋季大祭

10月1日（火）



みあれ祭



陸上神幸



主基（すき）地方風俗舞

10月2日(水)



流鏝馬 (やぶさめ)



翁舞

10月3日(木)



浦安舞



高宮神奈備祭

■主催者からのメッセージ



私たちは、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動を通して、世界に誇れるまちづくりに取り組んでいます。オガチマンスは、古代沖ノ島祭祀に由来する宗像の文化・歴史・伝統に触れられるイベントが盛りだくさん。みなさんと共に盛り上げていきたいと思いますので、ぜひ参加してください。

【宗像・沖ノ島世界遺産市民の会構成団体】

市コミュニティ運営協議会（12 地区）、宗像市老人クラブ連合会、宗像青年会議所、宗像大社氏子青年会、むなかた歴史を学ぼう会、宗像歴史観光ボランティアの会、宗像観光協会、宗像市商工会、宗像農業協同組合、宗像漁業協同組合、鐘崎漁業協同組合

2013年08月15日

宗像大社辺津宮の境内（江戸時代編）

古代・玄界灘を舞台に、日本と大陸の航海交流の要衝として信仰が生まれた宗像大社。その信仰は現在も続いています。

国指定史跡の「宗像神社境内」について、3回シリーズで紹介します。2回目の今回は、江戸時代です。

末社と絵馬堂

本殿・拝殿を囲むように120もの末社が21の社に祭られています。これらのほとんどは、17～18世紀ごろの建造物で、第三代福岡藩主・黒田光之が延宝3年（1675年）、宗像郡内の末社を合祀（ごうし）し、建てたものです。

末社の配置は、江戸時代からほとんど変わっていませんが、当時の絵図から現在の宇生（おう）神社は第二宮、絵馬堂は第三宮であったことがわかります（左上記絵図参照）。



本殿の周りに並ぶ末社

社家などが奉納した灯籠

辺津宮境内にある石塔で、最も古いのは、黒田光之が末社を合祀した年と同じ年の灯籠です。この灯籠の胴部には、神社を運営・管理する社家（しゃげ）の一つ、深田氏の奉納であることが銘文に刻まれています。これ以降、光岡村、曲村、田島村（上殿、片脇、宿谷）、村山田村、勝浦村など、宗像郡内の村や集落から灯籠などの奉納が盛んに実施されました。

聖水が湧く飯井水

護国神社の裏には、飯井水（いいすい）と呼ばれる井戸があります。江戸時代の絵図には、必ず描かれている井戸は、神事や祭事で使う聖水をくむための清らかな水が湧いていたようです。

江戸期の辺津宮境内は、福岡藩や宗像郡内の各村から手厚い信仰で支えられていたことをうかがい知ることができます。



宗像宮図「筑前国続風土記附録」（1793年）

2013年09月15日

宗像大社辺津宮の境内（古代・中世編）

古代・玄界灘を舞台に、日本と大陸の航海交流の要衝として信仰が生まれた宗像大社。その信仰は現在も続いています。3回シリーズで紹介する国指定史跡「宗像神社境内」。最終回の今回は古代・中世です。

中国で作られた1対の「宋風狛犬」

中世を知る資料は、国重要文化財指定の『宗像神社文書（もんじょ）』や『阿弥陀経石』などがあり、宗像大社神宝館に展示保管されています。その中でも、宋（中国）から渡来した「宋風狛犬（こまいぬ）」には、建仁元年（1201年）第三宮に奉納されたことが記されています。当時、第三宮は、江戸時代に辺津宮本殿の裏に移されるまで、現在の第三宮の釣川側にありました。



中国で作られた「宋風狛犬」

人々の信仰を今も感じる高宮祭場

『日本書紀（720年）』に辺津宮の記述があり、「海濱」と書いて「へつみや」と読ませています。これは、宗像大社周囲が、古代は入海だったためと考えられています。まだ社殿もない時代の辺津宮は、高宮祭場付近にあったようです。江戸期に書かれた『筑前國続風土記拾遺』に、「高宮は、土器の破片が甚だ多く、古代の祭器が残る」と記され、実際に沖ノ島での露天祭祀（さいし）遺跡と同様の祭祀遺物がここから出土していたことが分かります。このように高宮祭場は、古代から続く人々の信仰を感じることができるパワースポットなのです。



昭和の御造営で復元整備された高宮祭場

2013年10月15日

七夕伝説と御嶽神社へ続く参道（中津宮境内）

大島の南側に位置する中津宮は、大島港渡船ターミナルから徒歩5分のところにあります。

日露戦争の戦勝を記念した鳥居をくぐると、境内左側に天の川が流れています。その川を挟んで、牽牛社（けんぎゅうしゃ）と織女社（しょくじょしゃ）があり、七夕伝説をそのままに配置されています。

筑前続風土記には、「古今集栄雅抄（えいがしょう）」などを引用し、星宮（ほしみや）と紹介されています。

天の川に棚（小さなせき）を設け、その水面に意中の人映れば恋は成就するとされています。

毎年8月7日に実施されている七夕祭は、鎌倉時代から伝えられています。神社境内の配置は、明治期以降の鳥居や灯籠を除くと、江戸時代に描かれた絵図とほぼ変わりません。

また、社殿北側に広がる社叢林（しゃそうりん）は、県内でも珍しいバクチノキが多く繁殖するなど、原始的な空間をつくり出しています。

中津宮の境内は、海に面している部分だけではありません。社殿裏を抜けると御嶽山の山頂へ向かう参道があり、標高224mの山頂には御嶽神社があります。その周辺から、沖ノ島の露天祭祀（さいし）と同時期の祭祀遺跡が平成22年度の確認調査で発見され、中津宮の始まりを示すことが分かりました。

大島御嶽山遺跡と参道は、国の史跡「宗像神社境内」として年内に追加指定される予定です。山頂からは、沖ノ島（沖津宮）、田島（辺津宮）を見渡すことができます。古代も、この場所から、海域を航行する遣唐使船などの安全を願って、祭祀が実施されていた情景が想像できます。



国指定史跡に追加となる御嶽山参道

2013年11月15日

沖ノ島の神事現場 沖津宮遙拝所

大島には、世界遺産の構成資産候補の宗像大社・中津宮と沖津宮遙拝（ようはい）所があります。遙拝所は、大島の北側にあり、はるか48^{きふ}先にある沖ノ島（沖津宮）に向かって社殿が建てられています。

この沖津宮遙拝所の設置は、江戸時代とされ、宗像大宮司家断絶後、神職の一甲斐越智（いちのかいおち）氏・河野氏が神事を実施していました。現在、沖津宮遙拝所は、中津宮の神職が管理しています。

遙拝所の扁額（へんがく＝門や鳥居などの高い位置に掲げる額）には、「沖津宮」と記されていて、大島にありながら沖ノ島（沖津宮）の神事現場であることが分かります。

毎年5月27日に実施される沖津宮現地大祭は、年に一度、沖ノ島への渡島が許される日です。渡島の前日に大島に泊まり、中津宮で潔斎（けっさい＝心身を清めること）を受け、沖ノ島に向かいますが、悪天で沖ノ島に行けない場合は、沖津宮遙拝所で神事が実施されます。

沖ノ島は、本殿内部と同じ神聖な空間で、人の立ち入る場所ではありません。通常、沖津宮の参拝は、沖津宮遙拝所で実施します。



大島にある現在の沖津宮遙拝所

企業も応援!!世界遺産登録活動

2013年12月15日

遠賀信用金庫も「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産登録活動を応援しています。同金庫は「宗像・沖ノ島と関連遺産群」応援定期を平成26年1月31日（金）まで実施し、PR活動に協力。世界遺産登録活動支援金として預入金額に応じた寄付も予定されています。

また、同金庫各支店では「宗像・沖ノ島と関連遺産群」パネル展示にも協力しています。市では、今後も地元企業による世界遺産登録活動の応援の輪を広げ、世界遺産登録に向けて活動していきます。

●展示期間／場所

▽12月17日（火）～平成26年1月6日（月）／古賀支店

▽同1月8日（水）～同31日（金）／むなかた支店



店内のパネル展示で世界遺産登録活動をPR

「オガチマンス」で世界遺産登録活動をPR

2013年12月15日

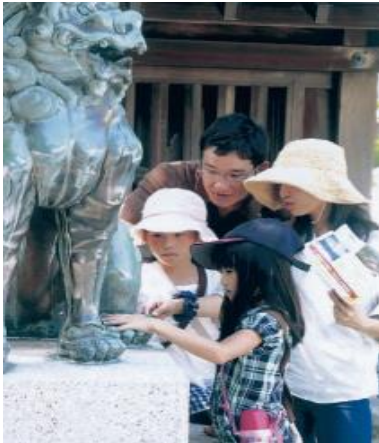
市と宗像・沖ノ島世界遺産市民の会では、9月をオガチマンス（世界遺産強調月間）として、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動をPR。みあれ祭前夜祭花火大会やプロジェクションマッピングなど、さまざまなイベントを実施しました。その一部を紹介します。



50人の出演者が熱演！むなかた三女神記

今年で5年目を迎えた、市民参加型ミュージカル・むなかた三女神記の公演は、宗像の子どもたちを中心とした約50人が出演。新たなストーリー・演出となった第3章「野を駆ける夢の風」に取り組みました。9月14日、宗像ユリックス・イベントホールでの本公演では、約1000人が観劇しました。来場者からは「歴史ある宗像に住んでいることを再確認した」「プロではないかと思うほどレベルが高く、感動した」などの声がありました。

子どもたちが熱演した「むなかた三女神記」



宗像の歴史を宝探して体感

遊びの中で宗像の歴史を肌で感じてもらおうと、9月21日、同22日、宗像大社辺津宮で「宝探し in 宗像大社」を開催。約400人が参加しました。参加者は、宝箱のありかを示す謎が書かれた地図を片手に境内を歩き回り、真剣な表情で宝箱の中の謎に挑んでいました。参加者からは「謎解きが難しかったけれど楽しかった」「宗像大社がこんなに広いと思わなかった」などの声が聞かれました。

こま犬に隠された謎に迫る親子



神迎え・灯籠の道

本殿の改修など、宗像大社の工事を一手に引き受ける宮大工の協力を得て、木製灯籠を制作しました。灯籠のパネルには、子どもや世界遺産登録を応援する人たちが、沖ノ島や宗像三女神だけでなく、海やカノコユリなど、思い思いの絵を描きました。9月30日～10月3日、旧玄海小学校から海の道むなかた館までの県道に80基の灯籠を飾り、幻想的な空間をつくりました。

市民手作りの灯籠

2013年12月15日

信仰と共に育まれた空間も重要「世界遺産国際専門家会議」

本遺産の本質的価値について最終的な調整

宗像市と福津市、県で組織する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が10月14日、同15日、福岡市で国内外の専門家を招いた会議を開きました。

会議には、ユネスコ世界遺産委員会に關係するダグラス・コマーさん（イコモス考古学遺産管理委員会共同委員長）ら8人と、国内から、イコモス委員で古代史を専門とする佐藤信（まこと）さん（東京大学大学院教授）ら5人の専門家が出席。本遺産の本質的な価値、類似遺産との比較研究、推薦書での表現方法など、多岐にわたり議論してもらいました。

会議に先駆け10月12日、同13日、海外専門家を中心に、全ての構成資産を視察してもらい、古代の日本と東アジアが、海を介してつながっていたことを肌で感じてもらいました。会議では、海と人との関わりから生まれた信仰であること、また、この信仰と共に育まれた景観も重要であることが指摘されました。

今後、会議での指摘事項をさらに研究し、来年度、本遺産の推薦書を文化庁に提出します。



国内外の専門家が一堂に会し議論

多くの世界的な価値を秘めた遺産 「国際学術研究報告会」

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を目指すに当たり、各分野の専門家に調査研究を依頼し、研究成果を提出してもらいました。10月12日、同13日、福岡市で、当遺産群の価値をさまざまな角度で捉えた研究成果の報告会を開きました。

沖ノ島の調査は、昭和29～46年に、3次にわたり実施され、その後、刊行された調査報告書としてまとめられています。この報告書の刊行から40年が経過し、今回、新たな技術・視点で研究した18人の専門家が研究結果を報告しました。

報告会の最後には、報告した専門家が、「沖ノ島、その世界的な価値を探る」をテーマにパネルディスカッションを実施。パネリストから、「東アジアとの交流の証を示す唯一無二の存在」「海を介した文化的景観」「今に続く生きた信仰の場」などのキーワードが繰り返し発言され、世界的価値を多く秘めている遺産であることが結論付けられました。



本遺産の世界的な価値を探るパネルディスカッション

2014年01月15日

沖ノ島の岩礁

国史跡追加指定に向けて

宗像市の海域には、自然的、経済的、歴史的に価値の高い島があり、沖ノ島もその一つです。

自然的価値の面では、大島の一部に、ツバキ科の植物「ハマヒサカキ」などが群生する貴重な環境が残されていることから、自然環境保全法の特別地域に指定されています。また、沖ノ島の南約1kmにある小屋島は、環境省や県が絶滅危惧種に指定しているカンムリウミスズメの貴重な繁殖地です。

経済面では、沖ノ島の北数十メートルのところにあるノリ瀬が、日本の排他的経済水域の外縁を根拠付ける離島として、平成24年3月に島として登録されました。

沖ノ島の南にある、小屋島、御門柱（みかどばしら）、天狗（てんぐ）岩は、江戸期の絵図に必ず沖ノ島と一体のものとして描かれています。また、沖津宮現地大祭などで沖ノ島に向かう船は、小屋島と御門柱の間を通過することから沖ノ島の鳥居のような意味合いを持っているといわれています。

現在、市では、小屋島、御門柱、天狗岩を沖ノ島と一体的な歴史的価値として位置付けるために、文化財保護法に基づく史跡の追加指定を目的に、測量などを実施しています。



鳥居の代わりに小屋島、御門柱、天狗岩

九州国立博物館で公開講座を開催

2014年02月01日

2月14日(金) 西谷正先生が沖ノ島の魅力を語る！



講師の西谷正先生

九州国立博物館で、3月9日(日)まで、特別展「国宝大神社展」が催され、「金銅製龍頭」など沖ノ島で出土した数々の国宝も展示されます。この催しに併せ、宗像市と福津市、県で組織する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が公開講座を実施。西谷正先生(海の道むなかた館館長、九州大学名誉教授)が国宝の解説を交え、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の価値と魅力を語ります。

- 日時 2月14日(金) 午後1時30分～
- 場所 九州国立博物館・ミュージアムホール(太宰府市石坂4・7・2)
- テーマ 宗像・沖ノ島と関連遺産群の魅力～まつりのはじまり、まつりのひろがり～
- 定員 先着280人
- 受講料 無料
- 申込締切日 2月13日(木)
- 申込必要事項 氏名
- 申込先
県世界遺産登録推進室
▽☎092(643)3162
▽FAX092(643)3163
▽ [▽メール sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp)

2014年02月15日

推薦書の提出に向けて世界的価値ある遺産を守る

市が目指している世界遺産は、不動産を対象としたものです。最近話題となった、「和食」の無形遺産や山本作兵衛の絵の記憶遺産、大分県や熊本県の世界農業遺産とは少し異なります。現在日本には、13の文化遺産と4の自然遺産の計17の世界遺産があり、法隆寺や姫路城、原爆ドームや屋久島などが有名です。昨年、富士山が世界遺産に登録されたことは、記憶に新しいでしょう。

世界遺産に登録されるためには、必ず、暫定リストに記載されなければなりません。世界遺産の予備軍ともいえる暫定リストに記載されているものは、現在、日本に12件あります。そのうち「富岡製糸場と絹関連遺産群」は、今年、世界遺産の登録の可否が決定。「明治日本の近代革命遺産」は、今月推薦書をユネスコ世界遺産センターへ提出し、平成27年6月ごろに世界遺産の登録の可否が決定します。

推薦書は、国内から年に1件しか提出することができません。「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、平成27年2月の提出を目指していますが、本年度、推薦書の提出が有力視されていた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の他、新たに「北海道・北東北の縄文遺跡群」や「金を中心とする佐渡（さど）鉱山の遺産群」、「百舌鳥（もず）・古市（ふるいち）古墳群」なども提出を目指しています。

このような状況の中で、文化庁や日本政府が、どの遺産をユネスコ世界遺産センターへ提出するかによって、平成28年の世界遺産登録に近づくのがどこになるかが決まります。

推薦書は、世界遺産登録の審査を実施する上で、とても重要な基礎資料です。現在、福岡県、福津市と、合同で作成中です。推薦書の項目は、所在地に始まり、資産の概要、資産の価値、評価基準の適用、真実性と完全性、他の資産との比較、資産と資産周辺の保護方法、観光客への対応、経過観察の体制などが記されます。

世界遺産登録は、推薦書がいくら完璧にできたとしても、「資産そのものが世界遺産としての価値を保ったまま未来永劫守ることができるのか」さらに、「資産がある宗像の歴史文化風土をどのようにして保護し、環境や景観をどのようにして保全していくか」ということが、現実的なものとして動き出さなければなりません。世界的に価値のある遺産を、周辺地域や訪れる人たちが、遺産を大切に、保護管理に積極的に関わっていることで、資産の価値を高め、世界遺産登録実現に近づくことができるのです。



「石見銀山遺跡とその文化的景観」の推薦書

市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」出演者募集

2014年02月15日

宗像・沖ノ島世界遺産市民の会が、9月公演予定の同ミュージカルに出演する人を募集します。応募を希望する人は、オーディションに参加してください。

●オーディション

▽日時 3月2日(日) 10:30~14:45

▽場所 海の道むなかた館

●練習期間 3~9月の毎週木・金曜日、17:30~21:00

*夏休みは別スケジュールあり

●公演予定日 9月13日(土)

●応募要件 原則、小学4年生以上の市民

●定員 40人

●参加料 15,000円(保険代などを含む)

●募集期間 2月23日(日)

●申込先 公益社団法人宗像青年会議所 ☎(39) 7166



昨年のオーディションの様子

写真家・藤原新也さんと直木賞作家・安部龍太郎さんの講演会を開催

2014年02月17日

海の正倉院「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を世界遺産に！

～地元福岡県出身の著名写真家と直木賞作家が沖ノ島の魅力を語る～

宗像市では、昨年5月に出版された「神の島 沖ノ島」の著者、写真家で作家の藤原新也さん、直木賞作家の安部龍太郎さんによる講演会を開催します。

当日は、藤原新也さんが「沖ノ島で魂を込めて撮った」写真を題材にお二人が沖ノ島の魅力を語ります。
参加無料です。ぜひお早めに申し込みください。

○日時 平成26年3月8日（土）13:00 開場、14:00 開演

○会場 イムズホール（福岡市中央区天神1丁目7-11 イムズビル9階）

○参加費 無料（募集定員300人）

○申し込み [こちらの専用申し込みページ](#)から申し込みください。

・ハガキの場合は、〒814-8585 「沖ノ島講演会係」あてに、住所、氏名、年齢を記入のうえ申し込みください（住所の記載は不要）。



2014 年 03 月 15 日

今夏提出の推薦書に向けて

簡潔で内容が伝わる遺産名を模索中

今年の夏に推薦書を文化庁へ提出する予定の「宗像・沖ノ島と関連遺産群」について、10 回の国内専門家会議と 5 回の国際専門家会議を経て、資産の価値付けや保存管理方法などをまとめました。

2 月 1 日、同 2 日に開催された専門家会議では、推薦書の内容が誤解を与えず正しく記載されているかなど、細部まで確認しました。特に推薦書は、英語で作成するため、英語訳について議論。例えば、宮は temple と shrine のどちらが適切かなど、一つ一つ確認しています。実際に推薦書を読む人が素直に価値を理解できる表現になっているかどうか、提出までの短い時間で検討しなければなりません。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」という名称も検討の一つです。名称から資産の内容が伝わらないといけません。資産の価値が整ってきた今、ようやく資産名の議論に入ることができました。日本の世界遺産の資産名には、「富士山・信仰の対象と芸術の源泉」のように主題と副題を組み合わせるものと、「紀伊山地の霊場と参詣道」のように主題で全体を説明している場合の 2 通りあります。本遺産も、極力簡潔で遺産の内容が伝わる名称を引き続き模索しなければなりません。

専門家から世界遺産としての価値が評価されている本遺産は、推薦書を介して日本人の感覚と欧米人の感覚が一致し、価値を共有することができれば、登録実現がさらに近づきます。



推薦書の細部にいたる確認を実施された専門家会議